

財政計画～将来にわたり行政の使命を果たすために～

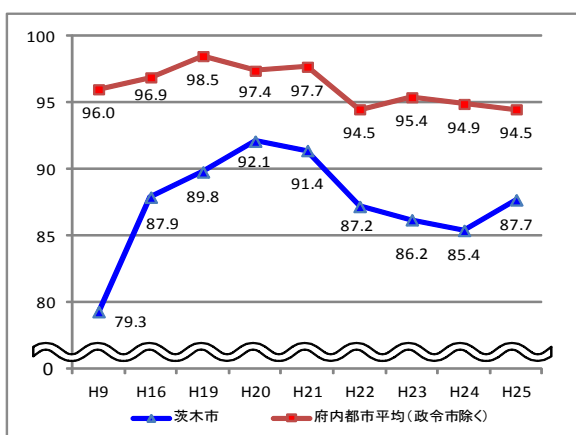
財政計画は、少子高齢化の進展等、社会環境の変化による厳しい財政状況にあっても、行政の使命である市民サービスの充実を図るため、現行制度による人口推計等を踏まえた中長期の財政収支見通しを基本とする、健全な財政運営に向けた取組の方向性を示したものです。

茨木市は、本財政計画に基づき市民と共に健全財政に向けた取組を実践し、基本構想の実現と基本計画の諸施策の推進を図ります。

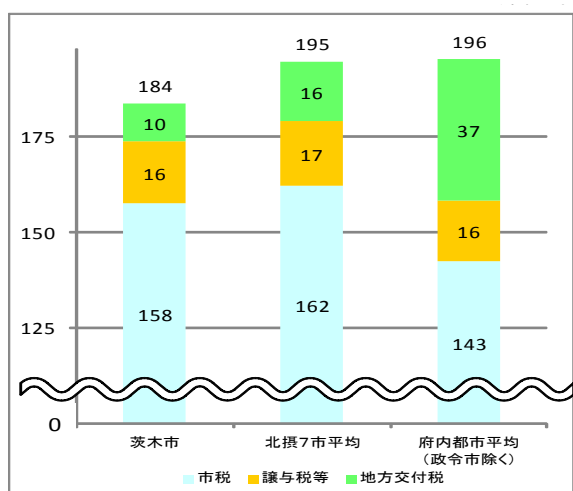
① 茨木市の財政の現状

～決して多くはない財源の中、健全化への取組により、良い状況をキープ～

財政の余裕度を示す経常収支比率は、低いほど財政の弾力性がある健全な状態とされており、本市は府内都市平均値より低い値となっていることから、大阪府内では比較的良い財政状況を維持しています。



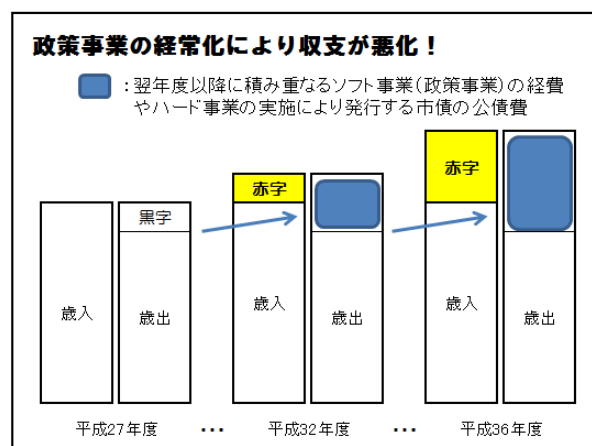
ただし、その要因は潤沢に財源がある、いわゆる「お金持ち」だからではありません。家計の給料にあたる市税等の一般財源は、大阪府内や北摂の各市と比較しても少なく、その限られた財源の中で、様々な事業等の見直しに努めたことにより、良好な状況を維持してきました。



② 今後の財政見通し

～「今」と「将来」に対応した施策の推進と財政見通し～

少子高齢化の進展により、市税の伸びを社会福祉経費の伸びが上回る状況の中、消費税率の改定による交付金の増収等を見込む場合、経常収支は黒字で推移する見込みとなりますが、今後も行政の使命として市民サービスの充実に資する事業に継続して取り組んでいくことから、今後そのような年度から収支不足に陥り、赤字が累積していく見込みとなります。



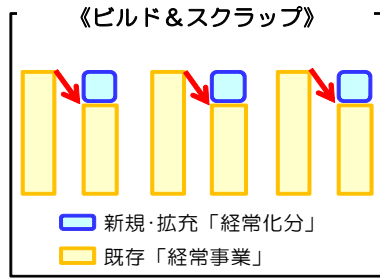
翌年度以降に累積する政策事業のソフト事業の経費とハード事業の公債費が、財政の硬直化を引き起こし、収支不足の要因となることから、課題に対応した取組を実践していく必要があります。

③ 将来を見据えた取組

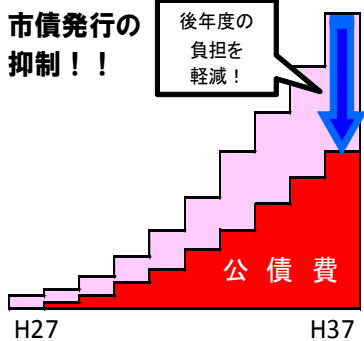
～将来にわたる財政の健全性の確保に向けて！！～

経常化する経費の累積による財政構造の硬直化を防ぐため、新たに実施する新規・拡充事業(ビルド)の財源は、既存の事業や制度の見直し(スクラップ)により創出する取組である、「ビルド&スクラップ」の実践による経常事業の見直しにより、柔軟な財政構造を保持します。

**経常事業の見直しを、
継続的に実施！！**

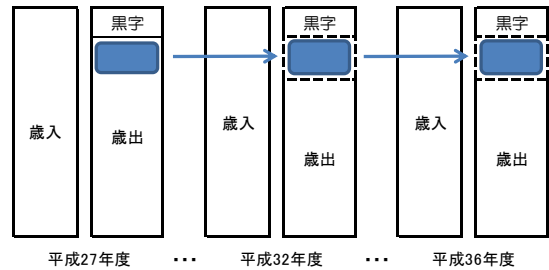


**市債発行の
抑制！！**



財政健全化の取組みにより黒字を確保！！

※積み重なる経常経費や公債費を、財政健全化健全化の取組みの実践により、収支不足を解消し黒字を確保



④ 財政計画を基本とした行財政運営

「茨木市が赤字になる?!」そんなことはないと思われがちですが、健全な財政運営を行ってきた本市でさえも、一定の条件を想定する中において、そうなる危険性があります。

また、財政状況の悪化は、すぐには表面化せず徐々に進行し、気づいた時には取り返しのつかない状況に陥ることになります。そうならないためにも、まだ健全なうちから健全性を維持する地道な取組を続けることが重要です。

総合計画は、市民の願いの詰まったプランです。しかし、すべてを実現することは、簡単ではなく、たくさんの「事業の実施＝ビルド」には、たくさんの「事業の見直し＝スクラップ」が必要となります。

行政の使命は、将来にわたる市民サービスの向上です。しかしながら、「財政の健全性」なしにはその使命を果たすことは不可能です。

本市が、将来にわたり市民サービスの充実を可能とする取組は、「ビルド&スクラップ等の実践」であることから、ビルド事業がもたらす効果と事業を見直す意義などをしっかりと捉えたうえ、一つひとつ適切に進めていかなければなりません。

様々な厳しい状況が予測されますが、本財政計画を基本とした行財政運営に努めることにより、行政の使命を果たしてまいります。

